

山武市在住高齢者のデジタルデバйд解消プロジェクト

提供学科：看護学科、福祉総合学科、医療薬学科

◎ 目的

社会の急速なデジタル化により、多くの高齢者がデジタル機器の利用や情報取得において取り残される「デジタルデバйд（情報格差）」が深刻な課題となっている。

本プロジェクトでは、デジタル機器に慣れ親しんだ学生が、デジタルデバйдの現状を理解するとともに、高齢者にデジタルスキルを適切に教えるための知識と技術を習得し、高齢者のデジタル活用を支援することを目的とした。



◎ 実施内容

- ・外部講師からの講義（教授法の確認）
 - ①デジタルデバйдの現状の確認
 - ②デジタル庁「デジタル推進委員」の取り組みについて聴講
- ②スマートフォン教室の実演
- ③高齢者へのスマートフォン操作を教える際のポイント
- ④スマートフォンを活用したキャンパス内におけるフィールドワークの実施
- ・スマートフォン教室開催準備（享受法の検討）
 - ①高齢者に教える内容の検討
 - ②学生間での体験検討会
- ・高齢者を招いてのスマートフォン教室開催
 - ①LINE、カメラ、Google マップ等の基本機能を学ぶスマートフォン教室を実施
 - ②グループごとでキャンパス内ツアーの実施

◎ 学びの効果

1. 高齢者との交流が新たな学びにつながった

LINE でのやり取りを通して、学生自身が知らなかった知識に触れる機会となり、高齢者の方々が想像以上に活発であることを実感できた。交流自体が楽しく、有意義な学びの時間となった。

2. 高齢者の成長に喜びと責任感を感じた

高齢者がスマートフォン操作を理解して使いこなす姿を見て大きな喜びを感じると同時に、もっと分かりやすく丁寧に教えたいという指導者としての意識が高まった。

3. 高齢者の興味関心をきっかけに学生の視野が広がった

LINE 交流を通して高齢者の興味のあるニュースや野球の話題に触れる機会が増え、それらを積極的に見る習慣がついた。